日本口腔衛生学会ニュースレター　Vol.17

NEWS LETTER

2026年1月発行　一般社団法人　日本口腔衛生学会
ニュースレター第17号

事務局　〒170-0003　東京都豊島区駒込1-43-9　（一財）口腔保健協会内
TEL：03-3947-8891　FAX：03-3947-8341
E-mail：gakkai37@kokuhoken.or.jp　HP：http://www.kokuhoken.or.jp/jsdh/
発行人　山本龍生　編集　広報委員会

生涯28

CONTENTS

- 理事長新年ご挨拶　～2025年を振り返りながら～
- 地方会幹事長のあいさつ　～2025年を振り返りながら～
- 第75回日本口腔衛生学会学術大会のご案内（第1報）
- 新任教授紹介
- 若手会員紹介リレー⑨
- 各種お知らせ
- 編集後記

理事長新年ご挨拶 ～2025年を振り返りながら～

【理事長】山本龍生（神奈川歯科大学歯学部社会歯科学講座口腔衛生学分野）

会員の皆様，謹んで新年のご挨拶を申し上げます．

2026年の年頭にあたり，皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます．昨年を振り返りますと，本学会にとって多くの重要な出来事が重なった，意義深い一年でございました．

2025年の歩みを振り返って

昨年5月，第74回学術大会が，小松﨑　明大会長（日本歯科大学教授）のもと，新潟市において盛大に開催されました．この大会の終了をもちまして，私は三宅達郎前理事長より理事長のバトンを引き継ぐこととなりました．三宅前理事長が築かれた強固な基盤を大切にしつつ，学会の更なる発展に向けて邁進する決意を新たにしております．

運営面では，学会誌の電子化について慎重かつ継続的に議論を重ね，その結果，2026年1月発行の第76巻より電子化へ移行することを決定いたしました．学術情報の迅速な共有，環境負荷の低減，ならびに運営の効率化に資する重要な取り組みであると考えております．

また，フッ化物応用をめぐる海外情勢を踏まえ，「う蝕予防のためのフッ化物応用の更なる推奨について」という学会声明を発出いたしました．科学的根拠に基づく歯科口腔保健の推進は，本学会の重要な使命であります．

さらに，各種委員会の精力的な活動により，多くの事業が着実に進められました．特に令和6年歯科疾患実態調査の集計分析検討会においては，概要版および詳細版の作成が行われ，今後の保健政策を検討する上で極めて重要な成果が得られました．

2026年の抱負

本年は，これまでの成果を基盤として，以下の取り組みを推進してまいります．

- 歯科公衆衛生専門医制度について，日本歯科専門医機構における議論に向けた準備を進めます．

- 杉原直樹大会長（東京歯科大学教授）のもと開催される第 75 回学術大会の成功に向け，万全の準備を行います．
- 会員増を目指し，若手研究者や多職種が参画しやすい学会運営を推進します．
- 社会情勢に即した声明や意見を，適切な時期に発出します．
- 学会の持続可能性を高めるため，運営基盤の整備と効率化を進めます．

歯科口腔保健が全身の健康に寄与する重要性が広く認識される中，本学会の果たすべき役割はますます大きくなっております．会員の皆様とともに，一歩一歩着実に前進してまいりたいと存じます．本年も変わらぬご支援とご協力を賜りますよう，お願い申し上げます．

地方会幹事長のあいさつ

～2025 年を振り返りながら～

北海道口腔保健学会からのご挨拶

【北海道口腔保健学会　幹事長】岩崎正則（北海道大学大学院歯学研究院）

謹んで新年のご挨拶を申し上げます．この度，三浦宏子前幹事長の後任として，2026 年 1 月より北海道口腔保健学会の幹事長を拝命いたしました，北海道大学の岩崎正則です．会員の皆様には，平素より本学会の活動に多大なるご協力を賜り，厚く御礼申し上げます．

2025 年までの本学会における数々の実績は，ひとえに三浦前幹事長をはじめとする執行部の皆様，そして会員の皆様一人ひとりの熱意とたゆまぬ努力の賜物です．その重責を引き継ぐにあたり，改めて身の引き締まる思いでおります．

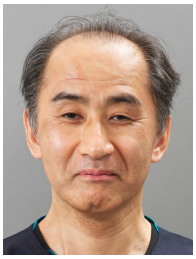
昨年の活動を振り返りますと，11 月 30 日に開催された第 15 回総会・学術大会が特筆されます．本大会は，北海道歯科衛生士会の末永智美会長に大会長をお務めいただき，同会との共催形式にて「今だから知っておきたい，いのちを守る災害支援～地域で多職種協働・連携をとるために学ぶべきこと～」をテーマに開催いたしました．元日の能登半島地震を受け，シンポジウムでは公立能登総合病院の長谷剛志先生による被災地報告や，本道行政および歯科衛生士会からの提言を共有し，多職種連携による災害時対応の重要性を再認識する極めて有意義な機会となりました．

また，行政施策への学術的支援も積極的に展開いたしました．札幌市が推進する保育所等でのフッ化物洗口事業においては，当学会のワーキンググループが職員向け説明資料を作成・提供し，専門的見地から事業導入を支援しました．さらに，同市における「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」事業にも協力し，低栄養や口腔機能低下のリスクがある高齢者へのアウトリーチ支援体制の構築に寄与するなど，地域に根ざした実践的な活動を推進してまいりました．

新体制となる 2026 年は，秋に北海道大学において私が大会長を務め，第 16 回学術大会を開催する予定です．歴代の先生方が築かれた強固な基盤を大切に守りつつ，北海道の広域性を踏まえた口腔保健の更なる発展に尽力する所存です．本年も本学会の活動に対し，変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう，何卒よろしくお願い申し上げます．

東北口腔衛生学会2025年活動報告および本年の予定

【東北口腔衛生学会　幹事長】小関健由（東北大学大学院歯学研究科地域共生社会歯学講座予防歯科学分野）



東北口腔衛生学会は，前身が日本口腔衛生学会東北地方会であり，青森・岩手・秋田・宮城・山形・福島の6県の歯科医師会と，岩手医科大学・奥羽大学・東北大学の3大学が主体となり活動している．東北地方の地域に密着した口腔保健・予防歯科学等の課題を持ち寄り共に対策を語り合い，いわば地域保健推進の同士達の情報交換と懇親の場としての役割を担っている．学術集会は各県持ち回りで実施し，担当県の口腔保健の問題点を中心とした特別講演と演者による口演が行われ，本年度は11月に秋田市で第14回が実施された．東北地方は平成23年に東日本大震災が発災し，その後には世界的な新型コロナウイルス感染症の流行に伴う行動制限といった大きな災害を経験している．更には，急激に進行する過疎化の中での超高齢社会，それに伴う歯科医療従事者の確保といった東北地方特有の大問題も抱えている．しかしながら我々は，東日本大震災後の復構を支え，震災後の全国の大地震時の災害時歯科救護・保健対策が大きく変革・改善されて行くのを目の当たりにし，問題を見つけ，考え，行動し，社会を変えていくことができていることを知っている．東北口腔衛生学会はこれからも，東北地方の地域口腔保健担当者が一堂に会して，これからの東北地方の口腔保健の行く末を形作る場として，更には東北地方に横に繋がる交流の場として，大いに活躍していきたいと考えている．先年には奥羽大学の広瀬先生がご退官して南先生が着任され，本年度は岩手医科大学の岸先生が，東北大学の小関ももうすぐであるので，東北地方の3大学は代替わりの時期でもある．今後の若い世代の新しい風の中で，東北口腔衛生学会の新たな展開を期待し，我々もまだまだ東北地方全体口腔保健の推進に邁進していこうと考えている．

甲信越北陸口腔保健研究会2025年活動報告および本年の予定

【甲信越北陸口腔保健研究会　幹事長】小川祐司（新潟大学大学院医歯学総合研究科予防歯科学分野）

甲信越北陸口腔保健研究会（地方会）は，第36回大会を第74回日本口腔衛生学会学術大会（本会）と併催で，2025年5月17日に朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターで日本歯科大学新潟生命歯学部衛生学講座・小松﨑　明教授を大会長として開催した．学術企画では，共催シンポジウム「歯科公衆衛生活動の未来へ」を開催し，フッ化物応用のこれまでと今後について議論を行った．また，6題のポスター発表を本会のポスター発表と同会場で行い，ポスター発表奨励賞には，八木　南氏他の「新潟県新発田市における成人歯科健診結果の推移分析―現在歯数のパーセンタイル曲線の変化―」，根津英之氏他の「銀イオンの口腔内細菌および口腔内試料への抗菌効果の解析」が選出された．

地方会を本会と同時に開催するのは初の試みであったが，地方会会員と本会会員の相互の交流を図ることができ，有意義な情報交換の機会にすることができた．発案者で大会長の小松﨑先生には厚く御礼を申し上げる次第である．

2026年の地方会は，石川県歯科医師会主催にて10月25日（日）に開催する予定である．開業医の先生方や歯科衛生士の方々にも地方会に積極的に参加していただけるよう，今年度から開催日を日曜日にすることとした．合わせて懇親会を前日の土曜夜に設定し，帰りの時間を気にすることなく楽しい懇親のひとときが過ごせるように配慮した．ぜひ多くの皆様に参加していただき地方会が実りある場になることを期待したい．

東海口腔衛生学会の活動を振り返って

【東海口腔衛生学会　会長】嶋﨑義浩（愛知学院大学歯学部口腔衛生学講座）

東海口腔衛生学会が主に関係するエリアには，東海地方の４県（愛知，岐阜，三重，静岡）があり，同エリアには２つの歯学部（愛知学院大学，朝日大学）があります．今回の企画は「地方会幹事長ご挨拶」ということですが，東海口腔衛生学会（旧東海地方会）は，幹事長とは別に会長を置くことになっており，現在は私が会長を担当していることから，私から本学会の報告をいたします．学会事務局は愛知学院大学と朝日大学が数年毎に交替で担当しており，現在は朝日大学の友藤先生に幹事長として学会事務局の運営をお願いしています．

本学会では，年に１度，総会と学術大会を同日に開催しており，４県の歯科医師会と２つの歯学部を合わせた６つが順番に学術大会を主催するようにしています．学術大会では，口演による一般演題発表と特別講演が行われます．2025 年度の学術大会では，朝日大学の友藤先生が大会長を担当されました．５つの口演発表と，厚生労働省保険局医療課の宍戸勇介先生による「医療 DX における検診データ活用の在り方」と題した特別講演が行われ，国が推進している保健・医療データのデジタル化の取組の現状や今後の方針について詳細に解説いただきました．

東海地方にある歯学部は２校と少ないですが，東海４県は行政に勤務されている歯科医師や歯科衛生士が比較的多いことから，歯科医師会や大学からだけではなく，行政関係者の学会参加や学会発表が盛んに行われています．一方で，本学会の課題は，近年，会員数が減少傾向にあることです．そのため，今後の抱負として会員増につながるような学会活動の活性化が必要であると考えています．

近畿・中国・四国口腔衛生学会の 2025 年の活動報告および新年の抱負

【近畿・中国・四国口腔衛生学会　幹事長】江國大輔（岡山大学学術研究院医歯薬学域予防歯科学分野）

皆様，新年あけましておめでとうございます．

旧年中は格別のご厚情を賜り，心よりお礼申し上げます．本年も変わらぬご支援を賜りますよう，何卒よろしくお願い申し上げます．

さて，近畿・中国・四国口腔衛生学会の幹事長を拝命してから，まもなく２年を迎えようとしております．巳年の 2025 年を振り返りますと，最大の出来事は，やはり第 36 回近畿・中国・四国口腔衛生学会総会でございました．

本総会は，鳥取県歯科医師会と岡山大学予防歯科学分野の共催により，10 月５日（日），鳥取県のとりぎん文化会館で開催されました．大会長は同歯科医師会会長の渡部隆夫先生が務められ，同歯科医師会の土井教子先生をはじめ，スタッフの皆様，そして予防歯科学分野の皆様の多大なるご尽力により，盛会裏に終えることができました．

当日はちょうど 100 名の皆様がご参加くださり，朝の一般口演（３演題）から熱心にご聴講されていました．続くポスター発表（11 演題）では活発な議論が交わされ，大変有意義な時間となりました．午後には幹事会・総会に続き，地元医師である安陪隆明先生（医療法人安陪内科医院院長）による基調講演，そして大阪大学名誉教授・天野敦雄先生（健口あまの代表）による特別講演（スイーツセミナー）が行われ，いずれも大盛況のうちに幕を閉じました．ここにあらためて関係各位に深く感謝申し上げます．

午年の 2026 年の第 37 回総会は，９月 27 日（日）に滋賀県のピアザ淡海で開催予定です．滋賀県歯科医師会と大阪歯科大学の共催のもと，学会事務局は徳島大学予防歯科学分野が担当いたします．近畿・中国・四国の地から，「天馬行空」の精神を胸に，引き続き口腔衛生および公衆衛生の発展に尽力してまいります．

新たな事務局ともども，本年もどうぞよろしくお願い申し上げます．

2025 年の活動報告と新年の抱負

【九州口腔衛生学会　幹事長】谷口奈央（福岡歯科大学口腔保健学講座）

2025 年は，九州口腔衛生学会において学会活動の充実を図る一年となりました．本年度より，「九州口腔衛生学会総会」を「九州口腔衛生学会総会・学術大会」と改称し，学術交流と情報発信の強化を意識した大会運営を行いました．総会・学術大会は 9 月に熊本市にて熊本県歯科医師会との共催により開催され，多くの会員の皆さまにご参加いただきました．また，若手研究者の意欲向上を目的として，優秀発表賞を 3 名に拡充しました．

大会のテーマは「人生 100 年を健やかに過ごすために －口腔と栄養と薬剤－」とし，基調講演では国立病院機構熊本医療センター歯科口腔外科部長の中島 健先生および（公社）熊本県栄養士会フリーランス・栄養関連事業等事業部部長・けんこうアド 代表の松下美由紀先生より，薬剤，栄養，口腔を軸とした多職種連携の重要性についてご講演を賜りました．歯科医師に求められる視野の広がりを再認識する機会となりました．

優秀発表賞には，佐賀県歯科医師会の古賀 真先生による「佐賀県医科歯科連携による糖尿病等対策事業における本会の 5 年間の取り組み」，福岡歯科大学口腔歯学部 4 年の石川慎之助さんによる「職域における歯周病リスク検査と集団指導を組み合わせた口腔保健推進の試み」，熊本県歯科医師会立歯科衛生士専門学院の弘中美貴子先生による「後期高齢者歯科口腔健診受診者と未受診者の年間総医療費の現状」の 3 演題が選出され，いずれも本学会の特色と社会的意義を示す内容でした．

新たな年に向けては，歯科医師会や行政との連携を一層深め，九州地方における歯科口腔保健の推進に取り組んでまいります．2027 年 5 月には北九州市で第 76 回日本口腔衛生学会学術大会および第 100 回日本産業衛生学会が開催される予定であり，職域と地域をつなぐ産業歯科保健の基盤づくりを進めるとともに，若い研究者の参加促進や学会の活性化を図ってまいります．

第 75 回日本口腔衛生学会学術大会のご案内（第 1 報）

【大会長】杉原直樹（東京歯科大学衛生学講座）

このたび 2026 年 5 月 22 日（金）～ 24 日（日）の 3 日間にわたり，第 75 回日本口腔衛生学会学術大会を沖縄コンベンションセンター（沖縄県宜野湾市）において開催させていただくこととなりました．日本口腔衛生学会の大会長を引受け，大変光栄であると同時に，身の引き締まる思いですが，本学会の学術大会を少しでも実り多いものにするため，準備委員会委員一同，一丸となって現在，鋭意準備を進めているところです．

さて，日本口腔衛生学会は 1952（昭和 27）年に設立された伝統ある学会であり，第 1 回学術大会が 1952 年 9 月 18 日に東京歯科大学で開催されてから 74 年間が経過いたしました．学会ホームページにも記載がある通り，本学会の理念は口腔衛生学の進歩と発展を図り，国民の健康と福祉の増進に寄与することを目的として設立された学会です．この間，多くの口腔保健関係者の方々がこの理念に沿って本学会を支えてきました．私自身も大学院入学と同時に日本口腔衛生学会に入会し，学会発表やシンポジストとして鍛えられてきました．これは継承していかなくてはなりません．そのような点から，本学術大会のメインテーマは「伝統と継承」と致しました．

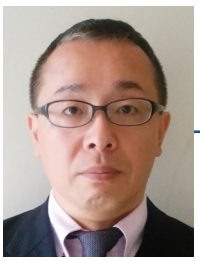
学術大会の企画プログラムといたしましては，特別講演をはじめ，教育講演やミニシンポジウム，シンポジウム，ポスター発表，ランチョンセミナー，認定研修会，情報交換会等々，多数の企画を検討しております．上記のように，各種企画を組み上げている最中ではございますが，必ずや多数の参加者が集う学術大会になると思っております．

沖縄の 5 月末は，平均気温は 25℃前後で湿度が高く，蒸し暑く感じる日が多くなることが予想されます．演者・

座長・会議出席を含めまして，参加者のドレスコードは軽装（ノーネクタイ・ノージャケット，できれば「かりゆしウェア」）でのご参加をお願いします．

参加される皆様にとって実りのある大会になるよう，準備を進めております．多くの口腔保健の関係者にご参加いただけることを期待しております．皆様の本学術大会へのご参加を沖縄で心よりお待ち申し上げます．

新任教授紹介



小椋正之（日本大学松戸歯学部歯科医療管理学講座）

令和6年6月末日をもちまして厚生労働省を退職し，同年10月1日付で日本大学松戸歯学部歯科医療管理学講座教授を拝命いたしました，小椋正之（おぐらまさゆき）と申します．厚生労働省では，歯科医師法，歯科衛生士法，歯科技工士法といった身分関係法令や，歯科口腔保健の推進に関する法律に関わる業務のほか，歯科医師国家試験，診療報酬改定，共用試験の公的化などにおいて，事務局としてさまざまな厚生労働行政に25年以上携わってまいりました．

当大学では，4年生を対象に社会歯科学を担当しております．これまでの厚生労働省での経験を踏まえ，歯科医療を取り巻く制度や行政の実際について，学生の皆さんにできるだけ多くの知見を伝えることができればと考えております．

また，私自身，祖父および両親が歯科医師であり，妻も大学時代の同級生で歯科医師です．妻は歯科診療所を開業しており，一人娘も令和7年の歯科医師国家試験に合格して臨床研修歯科医師として従事しております．妻も娘も歯科界に人質に取られていますので，歯科界が更に良くなってもらわないと困ります．歯科界の発展は切実な課題であり，微力ながら歯科界の発展に資する研究を進めていきたいと考えております．

厚生労働省を退職し立場は大きく変わりましたが，今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう，何卒よろしくお願い申し上げます．

大島克郎（日本歯科大学生命歯学部衛生学講座）

2025年4月1日付けで，日本歯科大学生命歯学部衛生学講座の教授に就任いたしました，大島克郎（おおしまかつお）と申します．講座内では，主に地域保健や医療福祉制度に関する教育・研究を担当しております．また，歯科衛生士・歯科技工士の教育機関である日本歯科大学東京短期大学の副学長職も務めており，業務上はこちらが主務となっております．

私は1999年に日本歯科大学を卒業後，歯科臨床や研究に従事するなかで，日本の歯科保健医療制度に深い関心を抱くようになりました．その後，人事交流制度のもと2009年～2015年に厚生労働省に出向し，公衆衛生施策に関する業務に携わりました．復職後は，これらの実務経験を活かして，歯科保健医療の実態把握などに関する研究を進めるとともに，歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士の教育に従事しております．

これからも，地域の歯科保健医療をどのように確保していくべきかという課題に対し，さまざまなデータ解析に取り組むとともに，歯科保健や医療の現場においてマネジメントを担うことができる人材の育成に尽力してまいりたいと考えております．

今後とも，ご指導ご鞭撻を賜りますよう，何卒よろしくお願い申し上げます．

後藤田宏也（鶴見大学歯学部口腔衛生学講座）

2025 年 4 月 1 日付で，鶴見大学歯学部口腔衛生学講座の教授に着任いたしました後藤田宏也と申します．私は，北海道大学歯学部卒業後，東京医科歯科大学歯学部予防歯科学講座に入局し，そして日本大学松戸歯学部（衛生学→社会口腔保健学→公衆予防歯科学→衛生学と講座名が変更）を経て，現在は鶴見大学の口腔衛生学講座において教育および研究に従事しております．本講座は予防歯科学講座として発足し，その後，地域歯科保健学教室と探索歯学講座が統合し，現在の口腔衛生学講座に至っております．

現在の当講座の主な教育・研究内容については，微生物学的分析を基盤としたう蝕や歯周病などの疾病予防に関する研究および地方自治体や地域歯科医師会と連携した地域住民の健康増進と地域保健の向上に関わる調査・研究などを行っており，これらの研究の一部は鶴見大学の他講座との共同研究として進めております．また，私は，このような研究に加えて，今まで科学研究費を活用した教育学分野に関する研究および歯学部入学以前に在籍していた東北大学農学部食糧化学科の学生時代から強い関心を持ち続けている食の教育と衛生行政に関わる研究を継続的に取り組んでまいりました．当該研究については，歯学部のみならず，東京大学大学院の情報理工学系研究科や総合文化研究科において研究に従事し，教育学部や農学部などのさまざまな教育研究機関の専門家･研究者と連携し，教育および保健医療の質の向上に関わる研究を進めています．そのなかでも現在は，人文学・社会科学的視点による保健医療分野の地域統計・地理学的分析に特に注力しており，地域の保健医療に少しでも貢献できるよう今後も研究を継続していきたいと考えております．

浅学・非才の身ではございますが，国民の公衆衛生の向上と健康増進ならびに口腔衛生学会の更なる発展に，微力ながら寄与できるよう努めてまいる所存です．今後とも，皆様のご指導，ご鞭撻を賜りますよう，謹んでお願い申し上げます．

田中とも子（日本歯科大学生命歯学部衛生学講座）

2025 年 4 月 1 日付で日本歯科大学生命歯学部衛生学講座の教授を拝命いたしました田中とも子と申します．1994 年に同大学歯学部を卒業後，1998 年に同大学大学院基礎歯科学専攻科を修了いたしました．また同年同大学歯学部衛生学教室（現：生命歯学部衛生学講座）に助手として採用されて以来，現在まで同講座で教育・研究を行ってまいりました．

研究については，大学院時代から同じ所属とは思えないほど，基礎研究から疫学研究までさまざまな研究に携わらせていただきました．大学院入学後，研究テーマを決める際には実験系を希望し，私の研究テーマは「小児歯肉由来線維芽細胞のフッ素感受性」というものでした．2006 年からは，新たに「学童期ヘルスプロモーションによる効果的な生活習慣病予防」というテーマを与えられました．私は疫学研究の経験がほぼなかったため，大変戸惑いながらも約 10 年間この疫学研究を続けました．

これらの研究成果をほぼ毎年日本口腔衛生学会で発表させていただきましたが，現在は口腔バイオフィルムに関する研究を行っています．将来的には現在行っている他大学工学部との共同研究などをすすめ，新しい領域での研究を広げていきたいと思います．

教育については，歯科界の潮流に合わせて先輩・後輩の先生方の意見や関連学会での情報を取り入れながら，講義・実習ともに徐々に変更してきました．これからも歯科界に貢献できる人材の育成を目指して，必要なことを見極め，吸収してもらえるように工夫を続けていきたいと考えております．

今後，私は日本口腔衛生学会の一層の発展のため，尽力していきます．皆様からのご指導ご支援のほどよろしくお願いいたします．

若手会員紹介リレー⑨

久保田　悠（神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科）
→　丸山貴之先生（岡山大学学術研究院医歯薬学域予防歯科学分野）

今回の若手紹介リレーは，神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科の久保田　悠が担当し，岡山大学学術研究院医歯薬学域予防歯科学分野の丸山貴之先生を紹介させていただきます．丸山先生とは，数年前から共同研究でご一緒させていただいているご縁です．

丸山先生は，岡山大学歯学部を卒業後，同大学院で学位を取得されました．その後，母校で一貫して臨床，教育，研究に携わられています．

研究では，「肥満ラットモデルにおける血清中 miRNA と歯周組織中 mRNA の関係」の題名で，2024 年度日本口腔衛生学会学術賞（LionAward）を授与されたことは記憶に新しく，肥満が歯周病悪化の因子であることを動物実験で明らかにしました．また，同研究の成果は，メディアにも紹介されています．近年では，基礎研究に加えて，工学などの異分野と協働し，音声を活用した心理的ストレスをマーカーとした歯周病の発症や悪化の予測を解明する独創的な研究にも取り組まれています．このような実績もあり，いくつかの国際学会誌で編集委員をお努めになられ，年々活躍の幅を広められております．

また，学内では教育を通じた後進の育成，外来での予防歯科診療，地域では，歯科健康診断を軸とした予防歯科の啓蒙等と業務は多岐にわたります．

このように，多様なフィールドで活動され，名字が表すように，気さくで穏やかな丸山先生に，次のバトンをお渡しさせていただきます．丸山先生，どうぞよろしくお願いいたします！

各　種　お　知　ら　せ

各種事業などについてご案内申し上げます．詳細は，学会誌第 76 巻第 1 号をご参照ください．
なお，学会誌は第 76 巻第 1 号より電子化いたします．（特別号を除く）

学会認定医・専門医・指導医の新規・更新申請につきましては 2026 年度よりオンライン申請に移行します．
申請フォーム等の詳細は 3 月中にメール等にてお知らせいたします．

学会認定医申請・更新（2026 年度分）について

学会員の皆様で資格のあると思われる方は，一般社団法人日本口腔衛生学会認定医制度規則・細則を参照のうえ，ふるって申請してください（申請期限：4 月 1 日（水）～ 9 月 30 日（水）まで）

学会専門医申請・更新（2026 年度分）について

資格を満たすと思われる方は，一般社団法人日本口腔衛生学会専門医制度規則・細則を参照のうえ，ふるって申請してください（申請期限：4 月 1 日（水）～ 9 月 30 日（水）まで）

学会指導医申請・更新（2026 年度分）について

資格を満たすと思われる方は，一般社団法人日本口腔衛生学会指導医制度規則・細則を参照のうえ，ふるって申請してください（申請期限：4 月 1 日（水）～ 9 月 30 日（水）まで）

学会認定地域口腔保健実践者の申請（2026 年度分）について

学会員の皆様で資格のあると思われる方は，一般社団法人日本口腔衛生学会認定地域口腔保健実践者制度規則・細則を参照のうえ，ふるって郵送にて申請してください（申請期限:4 月 1 日（水）～ 9 月 30 日（水）まで（消印有効））

認定歯科衛生士専門審査制度の申請・更新（2026 年度分）について

学会員の皆様で資格のあると思われる方は，一般社団法人日本口腔衛生学会認定歯科衛生士制度規則・細則を参照のうえ，ふるって郵送にて申請してください（申請期限：4 月 1 日（水）～ 9 月 30 日（水）まで（消印有効））

歯科衛生士委員会企画シンポジウム開催について

日　時：2026 年 5 月 23 日（土）14 時 30 分～ 16 時
場　所：沖縄コンベンションセンター　第 3 会場
内　容：「歯科衛生士に求められる業務タスクシフト・タスクシェアを考える」
演　者：尾崎哲則，犬飼順子，野口有紀

第 31 回一般社団法人日本口腔衛生学会認定研修会

日　時：2026 年 5 月 22 日（金）17 時～ 19 時
場　所：沖縄コンベンションセンター　第 1 会場
内　容：1. 認定制度新規申請・更新上の注意
2.「第 5 次食育推進基本計画に基づく栄養と歯科口腔保健の連携」講師：清野富久江
3.「豊かな味覚を育てるために」講師：植野正之

第 18 回一般社団法人日本口腔衛生学会指導医研修会

日　時：2026 年 5 月 23 日（土）11 時 20 分～ 12 時 20 分
場　所：沖縄コンベンションセンター　第 4 会場
内　容：1.「指導医に期待すること」講師：山本龍生
2.「認定医・専門医・指導医制度について」講師：嶋﨑義浩

※シンポジウム・各研修会の日時は一部変更になる可能性がございます．
最新のタイムテーブルについては大会ウェブサイトをご確認ください．
大会ウェブサイト URL: https://jsoh.jp/75/

編集後記　広報委員会より

謹んで新年のご挨拶を申し上げます．本年も引き続き，本ニュースレターをご愛読いただければ幸いです．

第 17 号は，須磨紫乃先生（徳島大学），久保庭雅恵先生（大阪大学），そして天野（隠居）の 3 名で担当いたしました．今号では，理事長をはじめ各地方団体の代表の方々より新年の力強いメッセージをいただいております．会員の皆様におかれましては，本学会の今年の指針を再確認する機会としていただければと存じます．

また，新任教授や若手会員の紹介記事も掲載しております．次代を担う若い力は，隠居には眩しく，非常に頼もしく感じられます．本年が皆様にとって，更なる飛躍の年となりますよう心よりお祈り申し上げます．

（天野敦雄）